

既製服の購買行動における品質要求度に関する研究

—— 女子短大生と母親の場合（第1報 夏用衣料品） ——

堀田延子* 林智子** 小泉章代***
広瀬明美**** 池永彰作*****

1. 緒言

バブル崩壊以後の、個人消費の低迷は著しいものがある。消費者の購買意欲は依然として低い水準にあって、例えば百貨店の売上の前年比のマイナスは、長期間にわたっている。当然、消費者の消費財に対する価値観にも変化が生じているであろうし、消費形態の中で生じる購入商品の選別も厳しくなっている。つまり、必要なものしか購入しなくなっているであろう。

衣料品は、どのようなものが必要であるかの判断基準について、消費者が基準をどこにおいているのかが、衣料品の生産・購入・消費に大きな影響を与えるであろう。

この点について、いろいろな衣料品の「品質要求度」を調査して、消費者の衣料品の品質についての期待と要求を衣料品の品目毎に知り、数量化することは衣料品の生産・消費の面からも重要な関心事である。

そのための本調査は、繊維製品消費科学の主要な研究課題の一つである。

2. 調査方法と調査項目

2-1 調査方法

- * 本学生生活学科衣生活専攻教授（被服構成学）
- ** 本学生生活学科衣生活専攻実習助手（被服材科学）
- *** 本学生生活学科衣生活専攻実習助手（被服構成学）
- **** 本学生生活学科衣生活専攻実習助手（被服構成学）
- ***** 元本学生生活学科衣生活専攻教授（被服材科学）

調査方法は、用紙に印刷された設問に答えるアンケート方式である。調査の対象は、平安女学院短期大学生活学科衣生活専攻2年生118人とその母親122人である。本調査は夏物衣料に関するものなので1998年6～7月の間に行った。学生に関しては、配布時に記入させ回収した。母親は1週間の留め置き法で行った。調査表の一部を表1に示す。

2-2 調査項目

調査した品質要求項目は55項目であって、具体的な内容は表4に示した。その55項目を分類すると下記のようなになる。8カテゴリーの大分類、さらに15カテゴリーの中分類でまとめた。

①審美的訴求	1 外観	3 項目	
	2 ドレープ性	1 項目	
	3 その他の外観	4 項目	
②着心地	4 運動的機能	7 項目	
	5 風合い	2 項目	
	6 保健衛生的機能	7 項目	
	7 型くずれ	4 項目	
③形態安定性	8 洗濯性	4 項目	
	9 仕上げ性	5 項目	
	10 安全性	2 項目	
④扱いやすさ	11 特殊な機能	3 項目	
	12 生地の強さ	5 項目	
⑤安全性	13 縫い目の強さ	1 項目	
	14 耐変質・変色性	4 項目	
⑥特殊な機能	15 その他の抵抗性	3 項目	
	16 機械的強さ		
⑦機械的強さ			
⑧理科学的抵抗性			

また、調査品目には夏物衣料の代表的なものを取り上げ、ワンピース、スカート、シャツ・ブラウス、サマーセーター、Tシャツの5品目とした。それぞれの品目ごと、項目ごとに0～100までの11段階の要求度を点数で記入してもらった。記入する際には、評点を記入するだけでは内容が分かりにくいので、文字による尺度例を併せて提示し、評点基準を整えるようにし

表1 アンケート表(部分)

問3. 衣料品は、まず見た目の外観のよさが大切です。それによって美しく装い、アピールすることができます。そこで、次の商品をお買いになる時、または着用しはじめの頃、あなたはそれぞれの商品の特に外観について、どんな品質や機能が必要と思われるか。下記の要領でお知らせ下さい。

記入方法：絶対必要と思われる品質、機能を100点、全くいらないを0点として、必要の度合いに応じて、商品ごとに表の欄全部に、点数でお知らせ下さい。
右の点数表を参考にして下さい。
ワンピースが全部すんでから、スカートへとご記入下さい。

絶対必要	きわめて必要	非常に必要	かなり必要	やや必要	まあ必要	あまり必要でない	まあなくてもよい	なくともよい	いらない	全くいらない
100点	90	80	70	60	50点	40	30	20	10	0点

夏用大人婦人物	ワンピース	スカート	シャツブラウス・ブラウス	サマーセーター	Tシャツ
1. デザインのよさ					
2. 色のよさ					
3. 柄のよさ					
4. 光沢のよさ					
5. 透けて見える度合い					
6. 布地の見た目のよさ					
7. きれいな縫製仕上げ					
8. ひだの出具合い					

た。

尚、この調査は1980年繊維製品消費科学に掲載¹⁾されている『婦人衣料の品質要求度に関する研究』と同じ形式のものである。

3. 調査結果と考察

3-1 データの処理

3-1-1 データの解析

調査方法のところでも述べたように、55項目5品目を0~100までの11段階で記入してもらった。学生・母親別にそれぞれの評点の平均値を求め要求度とし、標準偏差及び変動係数も求めた。

$$\text{標準偏差 (SD)} = \sqrt{V}$$

$$\text{変動係数 (CV) (\%)} = (\text{SD} / \sqrt{\bar{X}}) \times 100$$

V : 分散 $\sqrt{\bar{X}}$: 平均値

3-1-2 データの集計

55項目の要求度及び標準偏差の品目毎の平均を求めた。その値を前述(2-2)の8カテゴリー大分類及び15カテゴリー中分類に集約した。

3-2 考察

3-2-1 8カテゴリーにおける品質要求度

8カテゴリー5品目の平均でまとめた結果を表2に示す。これによると母親・学生共に形態安定性の要求度が最も高い。これは最近の消費者の美的感覚や意識の高さを示すものである。また、着心地に関する項目がこれより低い数値である。これは、感覚的機能と実用的機能に関する消費者の意識の違いや感じ方の違いが現れたものと見られる。

学生・母親の要求度は、ほとんどのカテゴリーで学生の方が上回っている。学生の場合、衣生活専攻の2年生を対象としているので被服に対する関心の高さが要求度に反映したと思われる。また、学生の方が変動係数が大きく、被服に対する意識の個人差が大きい。学生と母親は要求度に差はあるものの各カテゴリー毎の要求度を比べると高い項目、低い項目に同じような傾向がみられる。これは、8カテゴリーのレーダーグラフを作成したが(図1)、その形状が両者ほぼ同一のことから見て理解できる。要求度の差は学生のほうが2~3ポイント高くなっている。

母親と学生の差が大きいのは審美的訴求カテゴリーであり、学生の方が外観、見た目を重視する傾向が現

表2-① 8カテゴリーの要求度及び変動係数

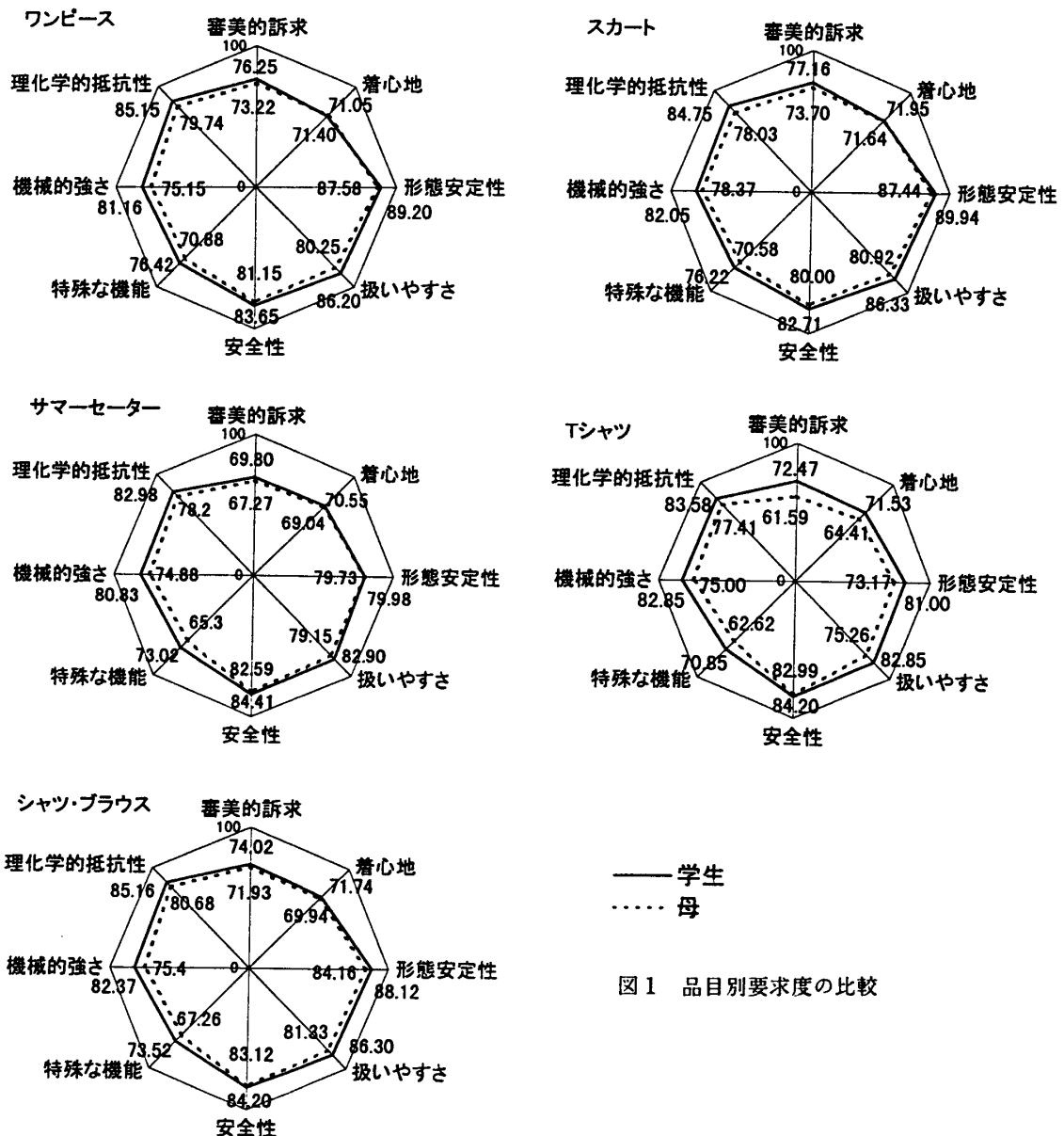
学生

品目 カテゴリー	ワンピース		スカート		シャツ・ブラウス		サマーセーター		Tシャツ		平均		範囲	
	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数
審美的訴求	76.25	19.47	77.16	16.83	74.02	16.31	69.80	16.50	72.47	18.16	73.94	17.24	7.36	3.16
着心地	71.05	16.83	71.95	17.10	71.74	16.70	70.55	16.14	71.53	18.03	71.36	17.01	1.40	1.89
形態安定性	89.20	21.23	89.94	22.40	88.12	20.86	79.98	18.20	81.00	19.38	85.64	20.41	9.96	4.20
扱いやすさ	86.20	20.46	86.33	20.94	86.30	21.35	82.90	19.94	82.85	21.47	84.92	20.83	3.48	1.53
安全性	83.65	20.85	82.71	20.32	84.20	22.18	84.41	21.74	84.20	22.43	83.83	21.50	1.49	2.11
特殊な機能	76.42	15.30	76.22	15.20	73.52	14.48	73.02	14.72	70.46	14.10	73.93	14.76	5.96	1.20
機械的強さ	81.16	16.63	82.05	16.63	82.37	16.53	80.83	16.05	82.85	17.29	81.85	16.70	2.02	1.24
理化学的抵抗性	85.15	21.05	84.75	20.90	85.16	21.79	82.98	21.79	83.58	21.30	84.32	20.94	2.18	0.89
平均	81.13	18.99	81.39	18.75	80.67	18.71	78.08	17.87	78.64	18.99	表中：要求度(点)			
範囲	18.15	6.48	13.72	7.73	16.38	8.41	14.61	7.54	12.67	9.08	変動係数(%)			

表2-②

母

品目 カテゴリー	ワンピース		スカート		シャツ・ブラウス		サマーセーター		Tシャツ		平均		範囲	
	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数
審美的訴求	73.22	15.63	73.70	14.84	71.93	14.46	67.27	15.13	61.59	17.47	69.54	15.51	12.11	3.01
着心地	71.40	16.83	71.64	15.35	69.94	14.84	69.04	14.06	64.41	14.58	69.29	14.79	7.05	2.77
形態安定性	87.58	19.18	87.44	19.16	84.16	16.88	79.73	15.76	73.17	13.17	82.52	16.94	14.41	6.01
扱いやすさ	80.25	15.73	80.92	15.56	81.33	16.38	79.15	15.60	75.26	15.47	79.26	15.75	6.07	0.91
安全性	81.15	17.56	80.00	16.67	83.12	19.26	82.59	18.17	82.99	21.05	81.97	18.65	3.12	4.38
特殊な機能	70.88	12.72	70.58	12.16	67.26	12.19	65.30	12.36	62.62	10.24	67.13	11.93	9.26	2.48
機械的強さ	75.15	13.11	78.37	13.35	75.40	12.67	74.88	12.65	75.00	12.05	75.76	12.77	3.49	1.30
理化学的抵抗性	79.74	16.15	78.03	15.63	80.68	16.29	78.20	15.56	77.41	15.69	78.81	15.86	3.27	1.07
平均	77.00	15.65	77.08	15.39	76.28	15.43	74.05	15.04	71.06	15.09	表中：要求度(点)			
範囲	16.70	7.01	16.86	6.30	16.89	6.68	17.29	5.47	21.40	10.62	変動係数(%)			



—— 学生
 母

図1 品目別要求度の比較

れた。とくに、Tシャツに対しては大きな差がみられこの品目には両者の意識の違いがあると推察できる。反対に差がなかったカテゴリーは安全性である。両者ともにこのカテゴリーに対する必要性の認識度は同じ程度と言える。

3-2-b 8カテゴリー・5品目別の比較

品目別に8カテゴリーを検討すると、各品目でのカテゴリー間の要求度の差(範囲)が大きいのは母親でありその差は、Tシャツでは21.40、サマーセーターでは17.29、シャツブラウスは16.89もの差が生じた。母親はそれぞれの項目に対する要求度を、品目毎に細かく考えているようである。学生はこれに比較してカテゴリー間、品目間の差が小さく被服全体として捕ら

えているように見える。

学生と母親共に要求度の高い項目は、外衣として着用するワンピースとスカートであった。夏物衣料についての調査なので、Tシャツ・サマーセーターなどの内・中衣は実用衣料として丈夫なものを求める傾向がみられ、所持枚数も多く消費者実態による要求度の違いが大きく現れている。

さらに、母親と学生の要求度に差の大きい品目の順位をみると、スカート・ワンピース・シャツブラウス・サマーセーター・Tシャツの順であった。外衣の方が中・內衣より大きい差が生まれ、母親と学生の衣服の表現力に対する期待度に違いのあることを示唆しているとも受け取れる。

図1のレーダーグラフは品目毎に学生と母親の要求

表3-1-① 15カテゴリーの要求度および変動係数

学生

大分類	中分類	ワンピース		スカート		シャツ・ブラウス		サマーセーター		Tシャツ		平均		範囲		
		要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	
審美的訴求	外観	92.11	28.51	91.19	15.11	15.11	88.96	16.28	86.70	20.77	91.58	23.16	90.34	23.34	3.15	13.40
	ドレープ性	58.47	14.37	60.25	13.53	58.73	11.01	48.22	12.38	50.34	14.49	55.20	13.16	12.03	3.48	
着心地	その他の外観	68.79	13.95	70.87	13.13	66.63	13.46	62.52	14.33	63.67	15.33	66.49	14.04	8.35	2.20	
	運動的機能	80.96	17.65	82.80	18.59	79.58	17.85	77.40	17.02	78.08	20.24	79.76	18.27	5.40	3.22	
形態安定性	風合い	76.06	16.31	74.49	15.48	78.35	16.17	77.71	16.31	76.82	17.87	76.69	16.43	3.86	2.39	
	保健衛生的機能	59.72	16.16	60.39	16.09	62.01	15.70	61.65	15.82	63.46	15.85	61.45	15.39	3.74	0.46	
扱いやすさ	形くずれ	89.20	21.23	88.94	22.40	88.12	20.86	79.98	18.20	81.00	19.38	85.64	20.41	9.96	4.20	
	洗たく性	90.17	22.76	90.40	22.75	90.51	23.47	87.99	21.66	89.96	24.21	89.81	22.95	2.52	2.55	
安全性	仕上り	83.02	18.69	83.07	19.50	82.93	19.95	78.83	18.56	77.17	19.28	81.00	19.13	5.90	1.39	
	全性	83.65	20.85	82.71	20.32	84.20	22.18	84.41	21.74	84.20	22.43	83.83	21.50	1.70	2.11	
特殊な機能	生地	76.44	15.48	76.22	15.37	73.49	14.72	73.19	14.88	70.56	14.35	74.00	14.96	5.88	1.13	
	目の強さ	79.73	16.89	80.68	16.89	80.95	16.92	79.95	16.30	81.86	18.12	80.63	17.11	2.12	1.82	
理化学的耐変質・変色性	縫い目の強さ	88.31	21.41	88.90	21.98	89.49	22.52	85.25	20.08	87.80	20.90	87.95	21.38	4.24	2.44	
	耐変質・変色性	83.56	20.77	83.31	20.15	83.73	21.75	82.65	19.73	82.67	21.63	83.18	20.72	1.08	2.02	
15カテゴリーの平均	その他の抵抗性	87.26	21.31	86.67	21.53	87.08	21.84	83.42	19.36	84.80	21.37	85.85	21.08	3.84	2.48	
	抵抗性	79.83	19.11	80.12	18.70	79.65	18.62	76.66	17.81	77.60	19.22	77.60	19.22	3.84	2.48	
15カテゴリーの範囲		83.63	14.56	80.94	9.62	81.78	12.46	39.77	8.91	41.24	9.86					

表中：要求度(点)
変動係数(%)

表3-1-②

母

大分類	中分類	ワンピース		スカート		シャツ・ブラウス		サマーセーター		Tシャツ		平均		範囲		
		要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	要求度	変動係数	
審美的訴求	外観	86.09	18.62	83.58	15.11	82.62	16.28	80.27	15.79	74.32	14.27	81.38	16.10	14.77	4.35	
	ドレープ性	59.18	15.07	58.44	16.08	66.48	12.47	58.69	13.12	49.59	15.63	58.48	14.60	16.89	3.61	
着心地	その他の外観	67.07	13.37	70.10	14.39	65.27	13.59	59.67	15.13	55.04	19.98	63.43	15.29	15.06	6.61	
	運動的機能	81.46	17.37	83.28	17.96	76.42	16.21	75.70	15.90	64.72	16.11	76.32	16.71	18.56	2.06	
形態安定性	風合い	73.65	14.98	71.19	13.60	76.48	15.53	75.94	15.57	74.39	14.86	74.33	14.91	5.29	1.97	
	保健衛生的機能	60.69	12.85	60.14	13.24	61.59	13.28	60.44	11.79	61.42	12.97	60.82	12.82	1.45	1.49	
扱いやすさ	形くずれ	87.58	19.18	87.44	19.16	84.16	16.88	79.73	15.76	73.71	13.71	82.52	16.94	13.87	5.47	
	洗たく性	90.17	16.63	83.76	16.17	85.21	17.68	84.90	17.40	83.69	18.58	84.18	17.40	6.48	2.41	
安全性	仕上り	77.69	15.01	77.59	14.64	78.23	15.33	74.56	14.16	68.52	13.18	75.32	14.47	9.71	2.15	
	全性	81.15	17.56	80.00	16.67	83.12	19.26	82.59	18.17	82.99	21.05	81.97	18.65	3.12	4.41	
特殊な機能	生地	71.06	12.72	70.63	12.10	67.32	12.06	65.22	12.21	61.70	10.81	67.19	11.85	9.36	1.91	
	目の強さ	72.88	13.26	76.56	13.92	73.39	13.10	73.13	13.05	72.84	12.89	73.76	13.24	3.72	1.03	
理化学的耐変質・変色性	縫い目の強さ	86.84	18.20	87.46	19.33	85.41	17.64	83.61	17.02	85.82	18.68	85.76	18.17	3.85	2.31	
	耐変質・変色性	79.04	15.72	79.40	14.59	79.04	15.42	78.01	15.31	76.95	15.23	77.89	15.52	2.45	1.13	
15カテゴリーの平均	その他の抵抗性	80.68	16.04	80.22	15.81	82.87	16.99	78.44	15.41	78.03	15.19	80.05	15.91	4.48	1.86	
	抵抗性	76.00	15.18	75.91	15.55	75.95	15.45	73.50	15.09	70.36	15.54	73.50	15.54	4.48	1.86	
15カテゴリーの範囲		80.99	6.46	29.02	7.23	23.82	7.20	26.21	6.38	36.23	10.24					

表中：要求度(点)
変動係数(%)

度を同一画面に描いたものである。その結果を品目別に見ると、母親と学生では要求度に差はあるものと同じような形態になっている。このことは両者の各カテゴリーに対する意識の違いは些少であると言える。特に要求度の差が小さい着心地・安全性について、この傾向が顕著である。審美的訴求についても、Tシャツ以外の品目について同様のことが現れている。

Tシャツにおいては両者とも安全性の要求度が最も

高く、これは素肌に直接着ていることが多く安全性の面に心配りが感じられる。しかし、それ以外の要求項目に対する学生の要求度は母親より低い。審美的訴求など著しい。Tシャツは学生にとっては実用本位の日常着であるが、母親にはオシャレの要素も含まれた日常着のようである。

ワンピース・スカート・シャツブラウスでは形態安定性のカテゴリーの要求度が高く、実用的な機能面を

重視して購入、使用することが感じられる。このことは、形くずれにたいする関心の高さを現している。

3-3-a 15カテゴリーにおける品質要求度
15カテゴリーの集約を表3に示す。

細分化された15カテゴリーの分類で最も要求度の高い項目は、学生・母親共に洗濯性であり、これを重視していることが分かった。学生の要求度は89.81であり、母親は84.18である。着用日数が1～2日と短く、洗濯回数が必然的に多い夏物衣料についてのアンケートなので当然の結果であると言える。

15カテゴリーの特に変化のあるところは、母親の方がドレープ性に要求度が高いことである。学生よりも母親の方に高い要求度を示しているのは、この項目だけである。母親はドレッシーな装いが多く、学生は細目のスリムなシルエットを好む傾向があるので、このような要求度がでてきたといえよう。これはまた、昨年からの流行をも意識していると考えられる。

運動的機能においてはワンピース・スカートの2品目に限り学生に比べて母親の要求度が高い。これらは、日常生活における衣料の着用頻度などに影響を受けているのであろう。

3-3-b 15カテゴリー・5品目別の比較

15カテゴリー間の要求度の差は、8カテゴリーに比べると大きく、かつ品目間の差も同様である。前述のドレープ性の要求度についても、品目によってその傾向に差がみられる。スカート・Tシャツの2品目については学生の方が大きい。サマーセーターは、母親の方が大きい、その差は10.47とやや異常な値を示している。これは、サマーセーターという衣料が学生には十分な理解がなかったのではないか。母親の方が要求度の高いものに、ワンピース・スカートの運動的機能がある。ただ、この運動的機能はTシャツについては、その差が13.36と学生の方が異常に高い。これはサマーセーター同様Tシャツも、母親と学生の間で內衣・中衣などの意識の違い、着用効果に対する期待度の違いなどの現れであろう。

カテゴリー間の要求度の差はどの品目も学生の方が大きい。これは母親の方がワンピースを除いて他の品目の差が大きかった8カテゴリーとは、際立った違いを見せている。これは、品質要求項目が細分化されると衣料に対する要求内容について、母親よりも学生の方が多様化していると考えられる。このことは変動係数を比較検討しても、同様の結果がみられた。

その他特徴的なものとして、両者とも外観の要求度は高く、その他の外観が続き、ドレープ性は低い。これは、襷などの外形よりもデザインや色・柄の方が重要視されているからであろう。しかし形くずれに要求度が高いのは、デザインの変形に対しての反応の大きさを示唆している。

品目間の要求度の差を検討してみると、小さいものでは学生の対変質・変色性、安全性、母親の保健衛生的機能が1点台である。大きいものでは学生のドレープ性、母親の運動的機能、ドレープ性、その他の外観、外観、形くずれが挙げられ何れも10点以上である。平均点の低い母親に点数差のカテゴリーが多く現れるのは、衣料の種類によって要求する項目を選んでいる結果とも言える。

3-4 55項目の調査結果

55項目の要求度の調査結果を表4に示す。表4は要求度の集計した数値を記号化したものである。記号化の水準は表4の欄外に示す。

ここでも全体に母親より学生の方が、記号で読み取れるように要求度が高い。学生の方が衣服購入時に厳しい条件で購入すると考えられる。

学生が高い要求度を示すのは、37項目5品目に及び、記号表示をした場合の2段階の差が生じたものが4項目2品目ある。これらは全て平均値間に、危険率1%で有意差が認められた。母親の要求度が高いものは、3項目4品目のみである。従って、両者の差がみられない項目は15項目に止まっていて、要求度に差が生じていない品目はないことになる。

両者に共通する項目では保健衛生的機能の分類に属する、不快なおいがない、むれにくさ、空気の通りやすさなどは、要求度が低く差もない項目である。つまり購入するときに意識しない項目といえよう。また、要求度は大きい差のないものに、縫い目の強さ、汗・光にたいする抵抗性、洗剤・しみ抜き剤などの抵抗性などの、耐久性や取り扱いやすさなどの実用的要求項目があがっている。

母親の方が要求度が高く例外と言える項目は、滑りやすさ、燃えにくさ、動いたときのひだの出具合いである。これは母親と学生のデザインの好みによるところが大きい。母親はワンピース・スカートなどにドレープのあるものを好む傾向がある。15カテゴリーでのドレープ性項目は、母親の方に要求度が高い項目であることが裏付けられる結果となった。燃えにくさは学生も高い要求度を示していたが、より母親の方の要

表4 55項目における品質要求度

大分類	中分類	品質要求項目	ワンピース		スカート		シャツ・ブラウス		サマーセーター		Tシャツ	
			母	学生	母	学生	母	学生	母	学生	母	学生
審美的訴求	外観	デザインのよさ	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	◎	○	☆
		きれいな縫製仕上げ	◎	☆	◎	☆	◎	◎	◎	◎	○	☆
		布地の見た目のよさ	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	☆
	ドレープ性	ひだので出具合い	×	×	×	△	△	×	×	×	×	×
		色のよさ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	その他の観	柄のよさ	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
		光沢のよさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
透けて見える度合い		△	△	○	○	×	×	×	×	×	×	
気やすく、動きやすいデザイン		◎	◎	◎	◎	◎	☆	◎	◎	☆	☆	
着心地	運動的機能	寸法がよく合う	☆	☆	☆	☆	◎	☆	◎	◎	◎	☆
		布地の身体へのなじみやすさ	◎	◎	◎	◎	◎	☆	◎	◎	◎	☆
		布地の伸び縮みやすさ	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
		すべりやすさ	○	△	○	○	△	△	△	△	△	×
		動いたときのひだの出具合い	○	△	○	○	×	×	×	×	×	×
		静電気でまつわりつかない	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○
心地	風合	手ざわりや肌ざわりのよさ	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		さわった暖かい感じや冷たい感じ	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△
	保健衛生的機能	しめりやすさ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		むれやすさ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		空気の通りやすさ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		温かさ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ぬれやすさ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
		軽さ	△	△	△	△	×	△	×	△	×	×
不快なおいがない	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
形態安定性	形くずれ	伸び縮みによる形くずれのしにくさ	◎	☆	☆	☆	◎	☆	○	○	△	○
		布地のふくらみの失いにくさ	◎	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
		しわのつきにくさ	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	△	○
		全体的な変形のしにくさ	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	◎	○	◎
扱いやすさ	洗たく性	汚れのつきにくさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
		洗たくのしやすさ	◎	◎	◎	☆	◎	☆	◎	◎	☆	☆
		汚れのとれやすさ	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	◎	◎	☆
		乾きやすさ	◎	☆	◎	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	仕上げ性	ほつれにくさ	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		アイロンやプレスのしやすさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	△	○
		付属品のこわれにくさ	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○	△	○
		補修のしやすさ	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	△	○
虫のつきにくさ	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	△	○		
安全性	燃えにくさ	◎	◎	◎	◎	☆	◎	☆	◎	☆	◎	
	皮膚に対する安全性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
特殊な機能	水のはじきやすさ	○	○	○	○	△	○	△	○	△	○	
	水の透りにくさ	△	○	△	○	△	○	△	○	△	△	
	寒さによる変質のしにくさ	○	○	○	○	△	○	△	○	△	○	
機械的強さ	生地	引張り強さ	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎
		引き裂き強さ	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎
		破裂強さ	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
		摩耗強さ	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	◎
		衝撃強さ	△	○	○	○	△	◎	△	○	△	◎
	縫い目の強さ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
理化学的抵抗性	耐変質・変色性	汗による変質・変色の少なさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		光による変質・変色の少なさ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		ガスによる変質・変色の少なさ	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○
		蒸気による変質・変色の少なさ	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	○	◎
	その他	洗剤・漂白剤・しみぬき剤に対する強さ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		アイロンなど熱に対する強さ	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
		カビやバクテリアのつきにくさ	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎

90点以上☆ 80点台◎ 70点台○ 60点台△ 59点以下×

求度が高かった。

要求度の差が多く品の目にわたっている項目は、外観に属する項目、仕上げ性に属する項目、生地の高さに属する項目などである。これらは、必ずしも感覚的性能や実用的性能に限定されていなくて、要求品質全体にわたって、親子の意識の差がみられる。

学生と母親の差が著しく多い品目はTシャツである。29項目に学生の方が母親よりも高い要求度を示した。唯一母親の要求度の高い項目は、燃えにくさであった。学生はTシャツを重要視している事がよくうかがえる結果となった。学生のほとんどは夏にTシャツを着ることが必須アイテムになっている事が分かる。所持枚数で見ても母親の4.87枚に対し学生は11.50枚も所持している。

4. 総括

本調査において、集計・考察の結果を次のように要約することができる。

① 8カテゴリーの品質要求度では、すべての要求度に共通であるが、学生の方が母親よりも高い値を示している。ただし、8カテゴリーのレーダーグラフを描くとその形状は相似形を示しており、両者にはカテゴリー間に共通の認識が存在すると考えられる。品目によるカテゴリー間の差は、母親の方が大きく衣服の着用目的が明確になっていると言える。

② 15カテゴリーになると、「洗濯性」などに両者に共通する高い要求度の項目が現れる。また、「ドレープ性」のように、母親の方が高い要求度を示す項目も存在する。

③ 15カテゴリー間の要求度の差が、すべての品目において学生の方が大きくなり、8カテゴリーの場合

とほぼ反対の結果になっている。品質要求の内容については、学生の方が多様化していると言える。

④ 55項目になると、母親と学生の要求度に差のある項目が著しく多くなり、品目に対する要求度に差のない項目は僅かに15項目である。また、すべての品目に要求度の差が生じている。これは、競うことが日常であったと思われる団塊の世代の母親と、母親の世代の雰囲気が薄れてきた少子時代の走りである学生との衣生活観、価値観の違いの現れであるかもしれない。

⑤ 調査対象とした品目の中で、「サマーセーター」について、母親は他の品目と同様に回答が寄せられたが、学生には無回答あるいはTシャツと混同したような回答がかなり見受けられた。この現象は、学生には明確な品目区分による着用経験が少ないか、又は着用経験がないのであろうと考えられる。

謝辞

本調査研究を実施するにあたり、アンケート調査にご協力下さいました本学生生活学科衣生活専攻2年生の学生諸姉、並びに母親の方々に厚く御礼申し上げます。

5. 参考文献

- 1) 池永彰作, 北田総雄他3名: 繊維製品消費科学, Vol. 21 No. 11, 36~50 (1980)
- 2) 池永彰作, 森田智子他2名: 繊維製品消費科学, Vol. 22 No. 12, 39~46 (1981)
- 3) 日本衣料管理協会監修: 衣料の使用実態調査 (平成8年12月~平成9年1月調査分) (1997)
- 4) 日本衣料管理協会監修: 衣料の顧客満足 (CS) 調査報告書 (1998)